夕刊
磐城新聞
十一月二十五日發行
(日曜祭日翌日休刊)
東京振替一〇八〇五五六五番

天氣豫報（小名濱測候所觀測）
今晩も明日も北西の風時雨模様

進學者指導上の注意
——父兄及擔任教員の御參考に——

清水生

二

別けても小學校の最上學年の兒童を有つ父兄母姉が、又は最上學年の兒童の擔任教員が、その子の卒業後に於ける進路を定めようとするとき、卽ち學校の選擇、職業の選定をする場合にその子の個性や能力に關する觀察が誤つて居つたならば兒童の將來を誤ることになり易く、一歩を誤るととんでもないことになつてしまふのである。小學校の先生がちよく開くことであるがこの子の力では到底入學出來そうもないやうな競爭の激しい學校へ、是非入學させたいとて相談を持ちかける母、その子には全く適しない職業に從事させたいとあせつたりする親が往々あるのである。これは其の子の眞の個性能力を理解しない所から來る無謀な希望である。又擔任教員の中にもその子の能力を全く度外し、有力者の子弟であるゝ特別の取扱をして、客觀的に家庭の社會的地位などのみに重きを置いて、入學學校を決定するものがあるやに聞くが、それは教育的でない。眞にその子の將來に於ける幸福を考へるならば、他人の眞似をしたり虛榮心から世間體をつくろふたりして、その子の能力に過重な學校へ入學を志望し、或は個性に不適當な職業を目指したりするのはよくないのである

要するに我が教へ子であるから又は我が教へ子であるが故に、よくその個性能力を悉知して居るものと、親や擔任教師が自ら信じて居つても、その觀察が正鵠を得ない場合が往々あるものですからその子のために進學すべき學校を選擇したり或は終生從ふべき職業の選擇をする場合には、その子の個性能力について更に再檢討を爲し關係者の意見をも十分參考にして、その子の性能、嗜好、趣味等の眞相を把握することに努力せねばならぬのである

中等學校の種類

尋常小學校を卒業して上級の學校に入學しようとするのが、その進學すべき學校を選ぶ場合には、父兄も小學校の教員も直ちに中等校や高等女學校のみを考へて居るやうであるが、それは父兄及教員として甚だ見解の狹いことでもあるし、又家庭の事情、本人の性能希望、趣味等を異にする多種多樣の兒童にとつては大なる不幸といはねばならぬ

遠い戰
蛭田佳伸

——遠い少年の秋の思ひ出——

草に隠れて
逃げてつた
城下の遠い
戰ごと

玩具の鐵砲
日の丸は
動いてゐました
藪の中

大將になる
留ちやんは
何時もさしてた
長い劍

寂しい斥候
双眼鏡
僕は見てゐた
晝の月

停戰喇叭の
丘い秋
默つて泣いてた
留ちやんは

芒が白い
草の蔭
今でも誰かが
呼んでゐよう

防空演習雜吟
第二世平華生

反バス・コン
○燈管にサンガー夫人大あわて
暗の爽子歸
○無燈明惠比須大黑不平なり
今樣保己一を氣取る
○七晩を座頭大に得意がり
腕章雜觀
○腕章に親爺すつかり若返り
○腕章を伜無上に嬉しがり

窓塵
野地たかし

四

私はこう考へ作ら、貴様は馬鹿だ、手前のため貧縁な身体をもう一度良く見つめろ、そんな身体で、どうして勞働に堪へられるか、少しばかり身体に元氣が出たからつて……ちつと〳〵焦燥と共に喉までこみ上げたものが言葉にする迄を、ちつとこらへて私はやつとまあさう一途に考へないで

もう少し辛抱してはどうか、その間に君の適當な働き口も搜して上げよう、とにかくこんな話にやめよう、それよりも、カルタでもしよう

突然私は階下に向つて
八重コーカルタ持つてコー

ハーイ、唯今、階下から八重子の若々しい聲がする

×

晴れた日曜日はたまらなく愉快だ。私は庭の手入れすべ作業服を着て、枯れた朝顔を取除いたり荒れた地面を均したり、日當りの緣側では、母と妹と狂三君の三人で、支那戰線に送る慰問袋を盛に造つてゐる

狂三さん、この袋へキャラメル入れたでせう、あ、それから、母さん、私の書いた諸詩窗の繪はがきとつて頂戴——それから狂三さんそれが濟んだら、この袋を組で結んでね

O・K。狂三も母も妹も、つゝましやかな幸福のうちに仕事をしてゐる

私はそれをちつと見つめてゐると、幸福に身がとけさうになり、しばらく目をつぶつて秋の太陽を燦々と受けた、その時だ

ホツホ……、まあ御らんなさい、母さん、兄さんの姿を、麥わら帽をかぶつて鍬持つて、ぼんやりした姿まるで支那兵ね、ホツホツ——母と妹はころげて笑つてゐる

11月26日

△上田秋成歿（文化六）△南滿洲鐵道會社設立（明治三九）△軍需疑獄で植村前造兵廠長官起訴さる（昭和一〇）△國民政府十元外交部長來朝△西日本自動車聯盟ガソリン値上げ反對運動で午後二時までに一齊に休車（同一二）

賀管農銀支店長廿五年勤續
珠雲　小野務中

孳實溫恭多頌聲
玆々二十五年更
欽君今日逢旌賞
努力唯當答聖明

講談

悲戀 髑髏組（どくろぐみ）
(53) 林杢兵衛作　金子士郎畫

廻る小車（十四）

（此の際、迷惑なこと）とは思ひながらも、結局斷りかねた刑部である

『拙者は其方に構はず歩くから、其方は勝手について來るがいゝ、無論時々注意はして其方の身邊は保護してやる』

さう云つて、先に立つてすたすたと歩く刑部は（はてあの女、確に何處かで見た事がある）

さうした考へが不圖浮んだ、それが遠い昔のことか、それとも此處一二年のうちか、それが判然としないらしい

（確に見覺れのある顔だ）

小首を捻りながら歩いてゐたが、どうしても思ひ出せない、それだけにまた苦となつて刑部の念頭から去り難い

お峰は、果してそれと氣附いてゐるから絶へず伏目勝でついて來る、斯うして連れともつかず、連れでないとも云へぬ奇妙な男女の道中が始まつた

（飛んだ男に掛り合つた。石藥師延命院裏で狙擊しそこねた浪人島宗刑部だ）

朝になつて、顔見合せた時、電のやうにお峰の頭の中をかすめた想ひ出だつた

だから、氣が咎めて、伏目にならなければならないお峰である

刑部は、お峰にかまはず先に立つてどん〳〵歩いた

（幾代に逢つたら、此の女を何んと云つて紹介しやう）

そんな淡い一つの杞憂が（確かに見覺えのある顏）と云ふ、最初の想ひ出せない氣懸りを、いつの間にや打消して仕舞つた

お峰は、刑部の姿を見失はない程度に間隔をおいてそのあとに續いてゐる、そうして時が經つにつれ、女の念頭には持前の盜癖がムク〳〵と頭を擡げ始めた

そうした盜癖の裏には、狙擊仕損ねたと云ふ一つの反抗も手傳つてゐるやうす

（どうしたら、懷中物を拔くことが出來るだらう）

その手段を考へて、お峰の足は遲れ勝だ

神奈川を過ぎて鶴見へ着いた、しかし其處にも幾代の姿が見當らなかつた、刑部の氣遣はしさは愈々かさんで行つたが、どうすることも出來ず、其の夜は錦屋と云ふ宿に草鞋を脱いた。一足遅れて、お峰も同じ宿の敷居を跨いた、それが丁度刑部の洗足の最中だけに宿の番頭は別々に這入つて來た此の二人を訝かしさうに見較べて居る

『御一緒で御座りますか？』

と、訊かれて

『いゝや……』と、應へずに居られない刑部である

『一緒ではないが、道連れぢや』

『可笑しう御座りますな御一緒でないお道連れ……』

番頭は、頻りに小首を捻つてゐる

『さうなのよ番頭さん、妾が女一人旅で道中が怖いものですから、御迷惑でも御武家樣に、道中だけのお道連れを願つたので御座いますわ』

お峰は解りよく説明をした

『な、なる程、さうで御座いましたか、いや解りました、ではお部屋は？』

『別にしてね、その代り明日の朝、お武家樣の御出立の時は、妾も知らして頂戴よ』

『へい〳〵よろしう御座います』

二人は番頭に案内をされて、二階の都合よく隣り合つた部屋へ通された

座敷は襖。一重お峰の眼が怪しく光つた

晝夜診療
外科一般　內臓外科
レントゲン科　泌尿器科
北川外科
〔血液檢査毎日〕
イツデモ入院デキマス。
平市新川町〔電四六四〕
醫學博士　北川芳夫
技師　三浦常保

はねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下
電話六七四
神經痛ニオレンヂ
リウマチスニパスタ

呼吸疾患救濟の王……
陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學專門學校御用
吸入用酸素
體溫計（メートル グラス）
御用命次第迅速に御屆け致します。
平市古鍜治町縣社ノ下
處方箋調劑所　**阿康藥局**
電話四四番
振替口座東京三〇〇六五

恐るべき中風、腦溢血を法治せしむ
アイヨー錠
血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉体的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。
アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に隨伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける体力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥
百四十四錠（八日分）貳圓　四百八十六錠（廿七日分）六圓
千八百錠（百日分）貳拾圓
專賣店　**山野邊藥局**　平市五丁目（電呼六六八）

産科婦人科專門
根本醫院
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（手術室完備）（入院隨時）

內臓外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

整形外科專門
X光線科
平市揺城小路
大河內醫院
電話五八八番

ニッポン・魚は
日本水産特約
平製氷會社
電二二八・三二六番
甘鯛　鯛
エビ　マナ鰹
白魚　帆立貝
ワカサギ　ウニ貝燒
マル東魚
大理石町四丁目
ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

公債、株式、賣買
一般證券業務
平市三町目
電話一七七番
友部株式店
助川町天王町　電話六九番
大子町栄町　電話二九番
營業所　水戸市泉町二丁目　電話二四〇一・六〇番

給仕募集
御望みの方は委細面談

旅舍**大幸館**
東京上野驛前
下谷郵便局横通角
電話下谷(83)六七七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄

産科婦人科
外科
藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　內本宗八
藥劑師　大岩俊雄
入院隨意
病室完備
平市新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

東北の特別事情から 平市へは幾ら來るか

近く交付さるべき 臨時地財補給金

東北市長會でさきに政府に對し臨時地方財政補給金問題につき陳情を行ひ、過般の一般補給金の交附による地方税の廢減によつて市附加税に少からぬ欠陥を生ずるに至り却つて東北都市財政に甚大な打撃を與へた結果に鑑み、近く交付さるべき臨時地財補給金については全國劃一制を排して東北特殊の事情を充分に考慮し平市の如き人口五萬以下の都市は勿論五萬以上の都市に對しても交付されたいと要望してゐたが、最近の情報によれば仙臺市外各市に交付される事にほゞ內定したと傳へられ各市當局者を喜ばせてゐる、因に平市では今年度分として幾に市制實施前に於ける平、平窪兩町村分の財政關係を標準として金三萬二千餘圓の交付を受けたが今後の該問題に對しては東北市長會及び全國市長會からの通知により陳情運動に參加上寄々考慮中だつたるので、元來問題の分岐が人口數に在り、五萬以下の平市は當然その向背如何に拘らず之が均霑を受くる立場に置かれてあつた處から今回の前記決定は單に五萬以上の大都市に好影響を齎したに過ぎないが中市としても町村の標準によつた前回と異り、今回からは押しも押されもせぬ純然たる一個の市として交付を受くるので其間自ら前回と異る點があらうと觀測される

成績概して良し

あす第一で講評會

防空演習

市民一致で行はれた今回の防空演習講評は靑沼市長が縣から更に上京、內務省の講評を聽いて昨夜歸つたので明二十六日午後一時から第一小學校々庭に於て市內防護團員約千名出席の下、行はるることゝなつたが靑沼市長は右講評を前にして次の如く語つた

―演習最終日の二十三日早朝はもう演習が終つたと云ふ氣ゆるみからその管制狀態に一寸遺憾な點が見受けられたが、マア官民一致の活動によつて概して良好と云へよう

尙防護團の制度化については福島、內務省の講評席上でも懇談の形式によつて懇談されたが未だ具体的には進んでゐない

平市會

平市會は大体來る二十九日頃招集、臨時財政補給金交付による特別戶數割後期分減額、及町時代の十一年度決算其他を附議する

尙輕減された戶數割の納稅切符は來月十五日配布される、納期は同月二十五日

地方の愛馬熱高まる

當局で奬勵金交付

平地方に於ける愛馬熱は時局に刺戟されて最近いよ〳〵高まり『平愛馬會』の結成を見たなど愛好者の團結を固めてゐるが石城馬產畜產組合ではこの機運に際し一層これが强化をはかることゝなり昨二十四日午後から平部体事務所に愛好者を招き今後の結成方針其他を指示、斯道奬勵について協議した

これが團体に對しては當局から奬勵金交付の道を拓けて居ることであり、現在では平愛馬會だけに止つて居るが今後は一層增加、強化されるものと期待されてゐる

勇士の赤誠 鹿島村

下矢田字中屋敷○○部隊一等兵江尻太君は此程應召したが同村國防後援會の活動基金として給料の一部を割いた一圓五十錢を送り同村民から感謝されてゐる

勇士の留守宅に同情

幼い二女兒を抱へて 柏原伍長妻女の感激

赤井村出身○兵伍長柏原四郎君は別項の如く目下某方面に於て皇軍の第一線に活躍して居るが、市內長橋町に夫君の出征不在を守る同君の內妻鈴木チカ子さん(三九)は別に定まつた收入とても無く四歲、二歲の二女を抱へ極めて不自由な生活を續けて居るのを見兼ねた小野圓次郎氏は此程白米五升を贈つた外、南町鯨岡市太郎翁は乏しき中から日毎一家の面倒を見て居るなど勇士の留守宅に集る同情は眞に涙ぐましいものあるが今回某々の斡旋により、平市役所當局から一日三十四錢の補給を受くる事となりチカ子さんはこの温い各方面の同情に感激し更生の歡喜に溺ちて居ると

肥料商組合。。。。

縣下肥料商組合總會を二十四、五の兩日市內マルトモホールに開いたが同業者八十餘名參集、二十四日午前八時からは評議員會、午後一時支部長會、更に二十五日午後一時から代議員會を開き午後から懇親會を谷口樓に催した

兩雄村葬

加藤 廣井 明後廿七日執行

去る九月七日滿洲金華堡に於て匪賊討伐中名譽の戰死を遂げたる加藤政英伍長の內郷村葬は明後二十七日午後一時より御厩第一小學校に於て擧行する旨既報の通りであるが、當日は九月十日北支湯山に於て之亦名譽の戰死を遂げたる關東軍兵站監部廣井孝三技士の雄魂を併せた合同葬と一段の盛葬を豫想されてゐる

開眼手術

お、見えるぞ

喜びに躍る七名

其の後の經過この通り

暗闇のなかに不自由な生涯を運命づけられた氣の毒な盲人達を救ふべく縣社會課では新潟醫大熊谷博士の手術を受けさせた處開眼者續出、各地にほゝゑましい話題を生んで居り昨報宮村クラさん外六名も初めて見る『光の世界』に驚きの目をみはり乍ら何れもその包みきれぬ感謝と喜びを救世主熊谷博士に捧げてゐるが開眼程度は次の如くである

◇中町宮村クラ(五六)全然見えなかつたのが六尺位の距離で人の顏がわかる

◇訓盲院生小西勇(二七)十五丁目涌井ハル(七〇)同上だつたのが二間位の處で見える

◇堂の前大津光之(二四)二尺位の處で人の顏も明瞭でなかつたのが四尺以上距つても判然わかる

◇北白銀町鈴木久子(三〇)少しも見えなかつたのが大体見える

◇二丁目館香榮(五二)薄々しか見えなかつたのが約二間近くでハツキリする

◇田町佐藤ツル(八〇)少しも見えなかつたのがよく見える

陣中を聽く

(30)

前途遙かなるを思ひ 愈よ責任重大を自覺

赤井村出身 柏原四郎君 通信

――日章旗を奉持し軍都○○々歡呼の赤誠に送られて以來早や九十餘日、泥濘膝を沒する惡路を聖戰既に幾度廣漠數百里進軍の跡、北支は惠み豐かな皇國の陽光は牛還し、暴虐なる敵匪を遠く河南省に擊退し、今や河北は平和境と化し、住民は戶毎に大日本軍萬歲と朱書せる日章旗を揭げ皇軍を迎ひ居る狀況に有之候(中略)敵は既設陣地に據り小癪にも頑强に抵抗し實に二十時間莫大なる戰死傷者兵器等を遺棄し退却(略)我軍の傷者は、軍の勝利を口走り上官は兵を、兵は上官を呼びつゝ瞑目する樣は鬼神を泣かしめ、眞に日本軍にして盡忠報國の念厚きを思ひ尊き犧牲者に對し敬虔の情禁ずる能はざるもの有之候(略)流石世界的人物蔣介石を生める軍官學校ありて華美を極めたる跡歷然たるも今は廢墟同然にして住民は食ふに食無く、飢わたる犬は支那軍の戰死隊を嚙り、路傍にイむ良民の打倒蔣介石を口走り居る樣は誠に憐れなるもの有之候(略)十一月三日明治節の佳節をトし、日章旗を城壁高く揭げ聖壽萬歲を絶叫する樣は神々しい樣にて候 經過戰鬪間身に微傷だに負はず常に第一線に活躍し今日を得たるは是れ熱誠なる銃後の皆々樣の御援助の賜と深く感謝仕り居り候、吾々は帝國既定の方針に基き東洋平和將來の爲め前途尙は遼遠なるを思ひ益々盡忠固き決意を誓ふものにして銃後に於ける一層の御後援を願ひ上げ候(後略)

十一月四日

內家氏榮轉。。。

農工銀行平支店員內家勇次郎氏は今回若松支店次長に榮轉、廿八日午前八時卅分平發で赴任

出る時寢る時火の用心

―平署で防火思想鼓吹

來月一日は非常時下の防火デー。平署ではこの日『國民精神總動員食源を撲滅する火災の防止』に左記防火標語を織り込んだ宣傳チラシ三萬枚を管下に撒布『出すな火事』の趣旨宣傳につとめる

出る時寢るとき火の用心
宵の不始末夜中の大火
一人の不注意萬人の不幸
子供の火遊び火事の元
何氣なく棄る吸殼火事の元

轢き逃げトラツク

二十三日朝八時頃田村郡宮城村神山和夫(三九)君が同村地內を通行中疾走して來た空トラツクに轢き倒され治療三週間の重傷を負つたが怪トラツクはそのまゝ超スピードで逃走したので三春署では直ちに縣刑事課に報告、縣下各警察署に手配捜査の結果四倉町四ツ倉合同貨物自動車會社の運轉手深瀨雄太郎(二八)と判明、同人は若松市まで鰯を積んで行つての歸りに事件を起したものであるがリヤカーと摺れ違つた事は事實だが衝突した覺えはないと主張してゐる

博徒續々擧る

昨夜、平署の手入れ

平署では昨二十四日夜更俄然活動を開始し小名濱町古港漁夫野崎某(三六)外二十數名を賭博罪として檢擧、今朝トラツクで本署に續々引致し目下佐藤、木村兩司法主任係りで取調べを進めて居る

何れも現行犯らしいが今後の推移が注目されてゐる

軍刀泥捕る

犯人は茨城縣久慈郡永瀨村少生劒生れの前科一犯

御代茂(二二)

去月七日の夜、赤井村吉田左司馬方の留守宅に忍び込み日露戰爭に使用した軍刀(五十圓)及び衣類數點、クローム腕時計を盜んで、前記軍刀を二十四日市內新川町只野研刀所へ賣り込まんとする處を檢擧されたので、追究の結果次の餘罪を自白

去月十九日夜山形縣東田川郡黃金村瀧澤の某方で二十五圓、金側腕時計(三十圓)を竊取、茨城縣久慈郡中里村鈴生田目丑之助方に雇はれ中は現金三十圓と洋服

る

猫ばゞ。。。

小名濱町定西木挽職馬目淸(三三)は八月二日夜鹿島村走熊地內縣道で同村薗部弘吉さんが落した風呂敷包み(衣類數點三十圓)を拾得そのまゝ、涼しい顏で持つてゐたこと發覺平署

ビール泥捕る。。。

本籍山田村住所不定前科五犯佐藤勘五郎(三九)は二十三日夜宮城縣鹽釜町海岸前をビール四本をぶら下げてうろ〳〵してる處を引致され、鹽釜署築港方面酒店より竊取したことを自供、餘罪追究中

玉川から新奴

玉川から軍國氣分滿點の而も緣起の良い『勝利』十八歲がお披露目した。傳法が賣り物の千葉縣木更津の產、面白さ加減は呼んで見ると一番わかる由

投槍

投書歡迎

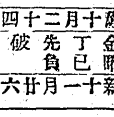
遺骨に對する默禱。。。。

◇去る二十一日わが平市に本籍を有する內郷村加藤伍長の遺骨が實家に向ふべく市內を通過した際、これを見た人々は何れも心からの哀悼の意を表したことであらうが、この無言の凱旋を迎へ、わが家の軒下にたゝづんで默禱を捧げたところは、何でも公園下の酒屋さん一家だけと聞く

◇同家では息子さんが出征してゐるので特に感慨の深刻なものがあつたのであらうが、何と云ふ當然とした場面であらう。今後もあることであり、私は出來得る限りかうした敬虔な氣分によつて、國家の爲散つた忠士の勇士に心からの感謝と無言の弔詞を捧げたいと考へてゐる

◇戰死は帝國軍人の本望である、膺懲の聖戰に出征して輝かしい勳功をたて、遂ひに、護國の鬼と化した勇士の遺骨を迎へたとき、われ〳〵銃後にあるものが心からの哀惜と感謝心とを捧げずには居られぬ筈である

(一市民投)



曆	十月二十四日
金曜	丁巳 先負 破 婁宿
新	十一月廿六日

評判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 定業に安んじ篤實なれば天惠自ら廻り來る▲二黑 愼重に行動すれば益々發達を見すべき吉日▲三碧 交渉事は總て當てにならず又人を賴るは凶▲四綠 家事を整へて他事に心を移さゞれば咎めなし▲五黃 辛苦奮鬪すれば次第に發展を見る病難注意▲六白 次第に勢力の加はる日面目なれば福多し▲七赤 物事自由に振舞ふときは過ちを起し易き日▲八白 衆人の引立多大にして存外の進展を見べし▲九紫 業務振はず爭論を起しようの起り易き日自重せよ

二十六日 (小名濱潮汐滿潮干潮)
滿潮 前一〇、五五 後一〇、五五
干潮 前三、四五 後六、五〇

廣告

復寫鮮明 筆觸快適 ゼネラル カーボン紙 魁文堂 電話313番

酒とマヅイ おでんの榮ちやん 平市田町花ノ里 電話三三番

東西會社の新商品 石鹼 歯刷子 歯磨 連鎖店にあり
良い電球は 眼の護り
國產 トウランプ

おでん 一平(イツペイ) 電話二六三番

簡易金融 磐城無盡 貯蓄ノ趣味 縣內各町出張所

父精一儀急病ニテ昨二十三日午前六時死去致候間此段御通知申上候
追而葬送ノ儀ハ來ル二十六日午後一時ヨリ二時迄自宅ニ於テ告別式執行午後二時出棺火葬相營ミ可申候
昭和十二年十一月廿四日
平市六間門二番地
男 武田忠夫
渡部千賀
竹內七郎
親戚總代 武田松衛
齋藤直三郎
友人總代 水野虎三郎
岩本重雄

平市紺屋町一一 上原家政婦會 會主產婆 上原通子 電話二二一番
產婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

さー祝盃だ、先づ嵐山を 定價(一升)二圓七十錢 平市三丁目 上總屋商店 電話七三一番

特撰 銘酒 嵐山 化氣陶然
山形縣嵐山酒造株式會社釀造 連戰連勝・皇軍萬歲
東北の銘釀

夜間診療
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 專門
松村胃腸科性病科醫院
(見習看護婦募集)
(電話一〇七番)